

雪の大地



雪国について

雪国の今

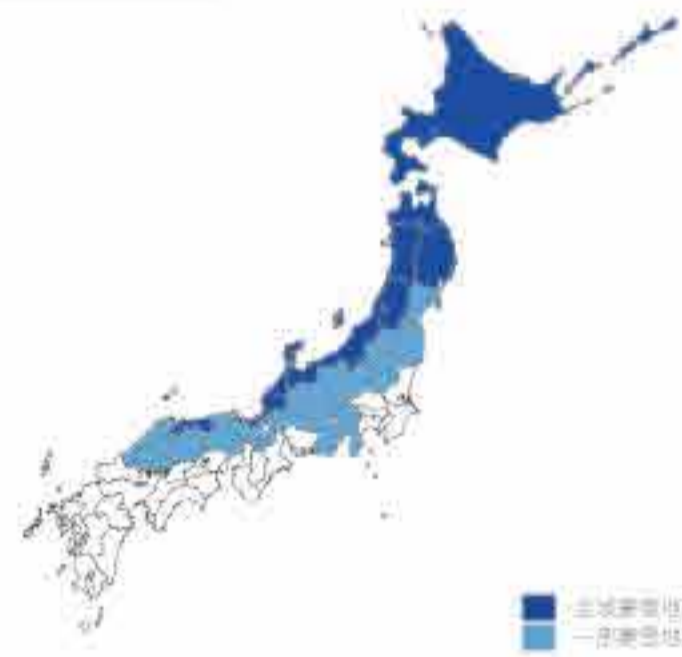
日本の国土の約半分は豪雪地帯であると言われている。
 そのため雪国には多くの人々が生活していることになる。
 しかし、車や鉄道といった交通手段は雪との相性が悪く、
 相対的に雪国はだんだんと暮らしにくくなっている。
 また、雪は人々に多くの被害をもたらす。
 雪は雪国の人々にとって邪魔者扱いられている。

雪が起す被害



雪圧害 積もった雪の重みで家屋や農機などが損傷する被害。
着雪害 積雪とは雪が物体に付着することであり、それによる災害である。
 電線に付着する電線着雪と電車に付着する列車着雪などの被害が主である。

日本の豪雪地帯



積雪害 大量の雪が長時間積っていることによる被害のことであり、採光不足や換気不良、
 鉄道や道路では交通障害を起こす。
雪崩害 斜面の雪の一部に亀裂が入り、崩壊することで起こり、交通障害や人身災害を引き起こす。

雪国の昔

今から一万年前から多くの人々が雪国に暮らし続けていた。
 雪の採集によって産物が豊かになり、
 同時に人間にとっては暮らしやすい環境であったのである。
 雪を遊び道具にし、冷蔵庫のように貯蔵としても利用し、
 冬は農具作りに動かしむなど、雪を邪魔者扱いせず、
 雪を利用してうまく共生していた。



近くの町との交流は頻繁に行われていた。
 雪が降ると遠くに行けなくなるため、近くの町同士のつながりは強かった。



雪国に住む人々は、雪の中でも何物が運べるように、
 また、寒さに耐えるために様々な道具を発明してきた。
 住居が壊れないように雪は広い土地にためていた。その雪も歩行や遊びの場として活用されていた。

雪国の知恵

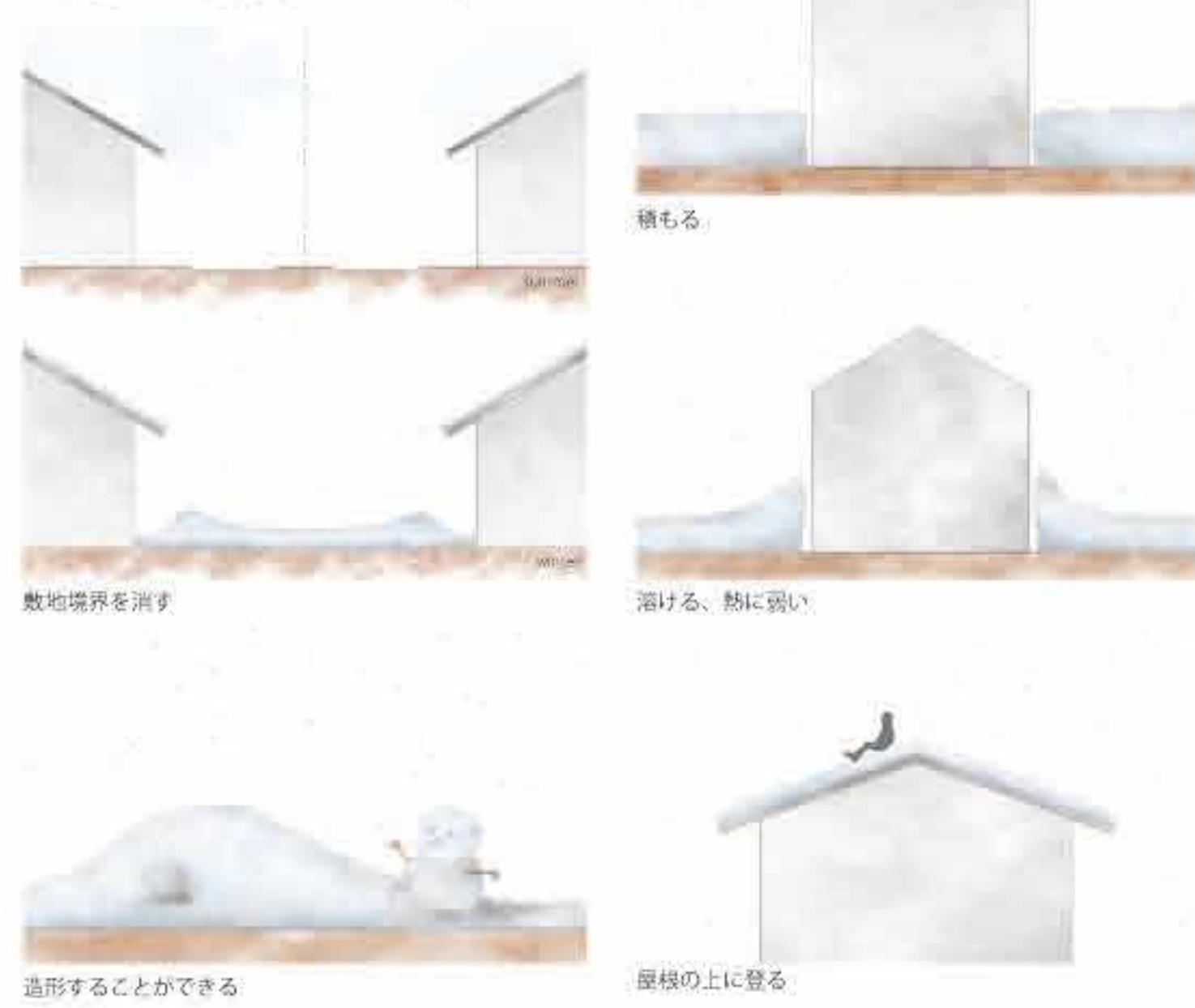
近年、雪の価値が見直され、大量の雪が活かされ始めました。
 スキーなどの娯楽施設や冷房のエネルギーとして使ったり、
 昔からの知恵である雪室を施設化し、
 さらにそれを観光やイベントに使っています。
 しかし、雪室は人の居住空間ではなく、
 雪まつりやスキーといった娯楽は冬に限定されているのです。



雪室 一年中大量の雪を保存する施設で、主な用途は冷房の貯蔵である。
 積雪期は建設が難しくというデメリットがあり、他の飲食店も雪室で貯蔵することで冷房費より割
 符費効力を発揮する。
雪室の利用 従来のような積雪は冷房と貯蔵のみだが、雪室のように空間として人々を招いたり、
 集まる場所のように使ったり、中には雪の山のように感じさせる
 観光としての作り手の工夫と工夫によって観念している。
雪まつり 雪国では大抵の村が雪まつりを行う。雪の山や雪のトンネルなどのスキー
 場と異なり雪で遊べる場所をつくることで観光客が楽しめるようになっている。
スノーシェッド 雪室によって通気性が妨げられないようにするための土壌保護である。
 雪室以外にも様々な形状や材質のものがある。
雪室の活用 雪室の活用は冷房と貯蔵のみだが、雪室のように空間として人々を招いたり、
 集まる場所のように使ったり、中には雪の山のように感じさせる
 観光としての作り手の工夫と工夫によって観念している。

提案

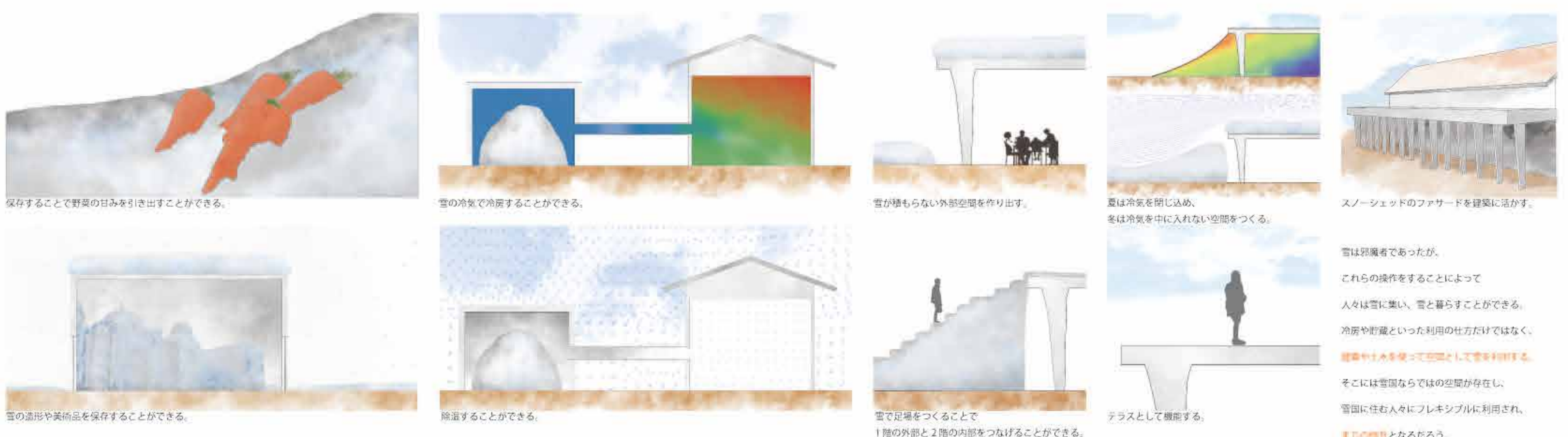
雪は交通を妨げ、命を脅かす邪魔者であると言われるが、
 視点を変えることによって様々な効果を見ることができ、
 ほぼ同じ時期に大量に降り積もる雪は、
 空間や造形に大きな影響を与えるはずである。



積もる
融ける、熱に弱い
敷地境界を消す
造形することができる
屋根の上に登る

操作

- ①公共機能の集積 雪がもたらす効果を利用し、公共機能が集積することで全体として夏はまちに開かれた複合公園、冬は雪の造形や遊びの場としてフィールドアードミュージアムが完成する。
- ②雪室の利用
- ③スノーシェッドの利用



①公共機能の集積 雪がもたらす効果を利用し、公共機能が集積することで全体として夏はまちに開かれた複合公園、冬は雪の造形や遊びの場としてフィールドアードミュージアムが完成する。
②雪室の利用 保存することで野菜の日みを引き出すことができる。
 雪の冷気で冷房することができる。
 雪の造形や美術品を保存することができる。
 陰湿することができる。
③スノーシェッドの利用 雪が積もらない外部空間を作り出す。
 雪で足場をつくることで1階の外部と2階の内部をつなげることができる。
 テラスとして展開する。
 スノーシェッドのファサードを建築に活かす。
 雪は邪魔者であったが、これらの操作をすることによって人々は雪に集い、雪と暮らすことができる。冷房や貯蔵といった利用の仕方だけではなく、**娯楽やイベントなどによって空間として雪を利用する**。そこには雪国ならではの空間が存在し、雪国に住む人々にフレキシブルに利用され、**雪の価値**となるだろう。



日本地図



新潟県地図



案内図



冬の津南町



夏の津南町



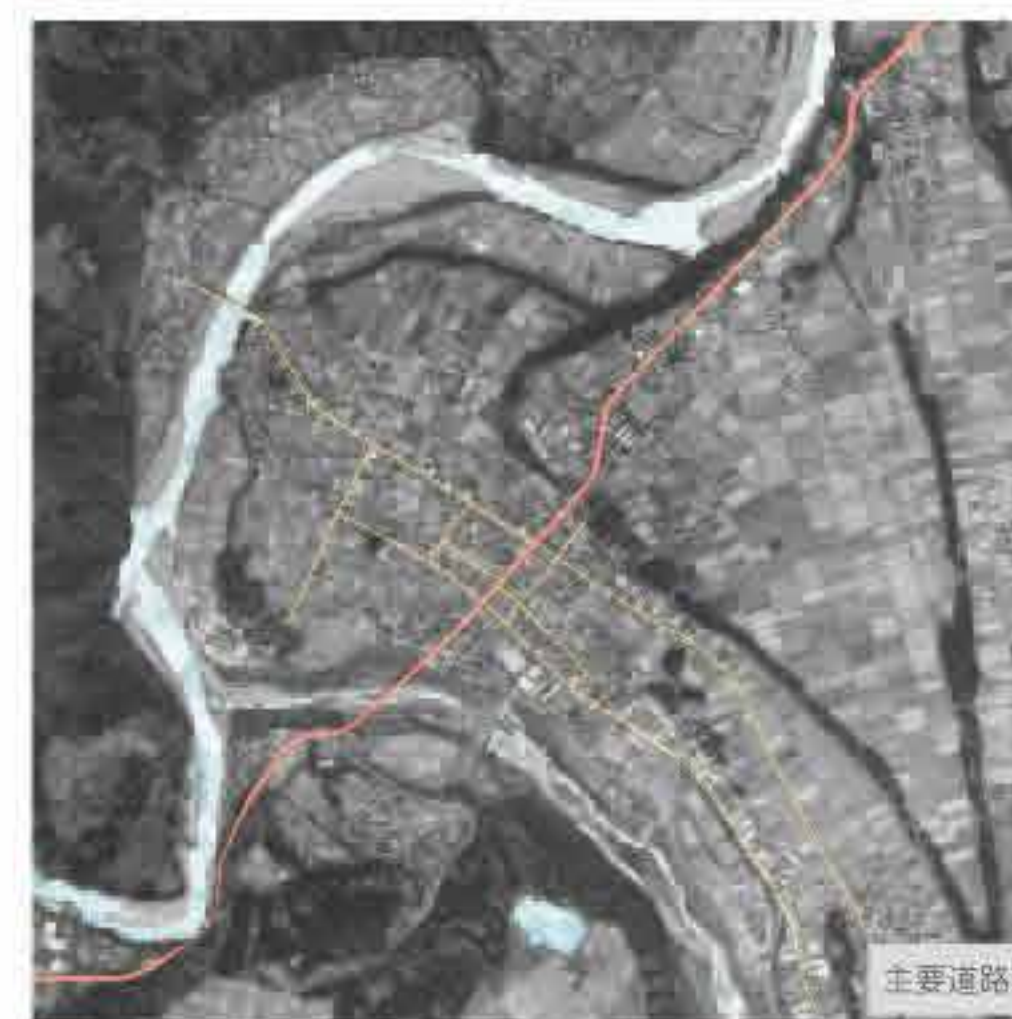
スキー場

Background

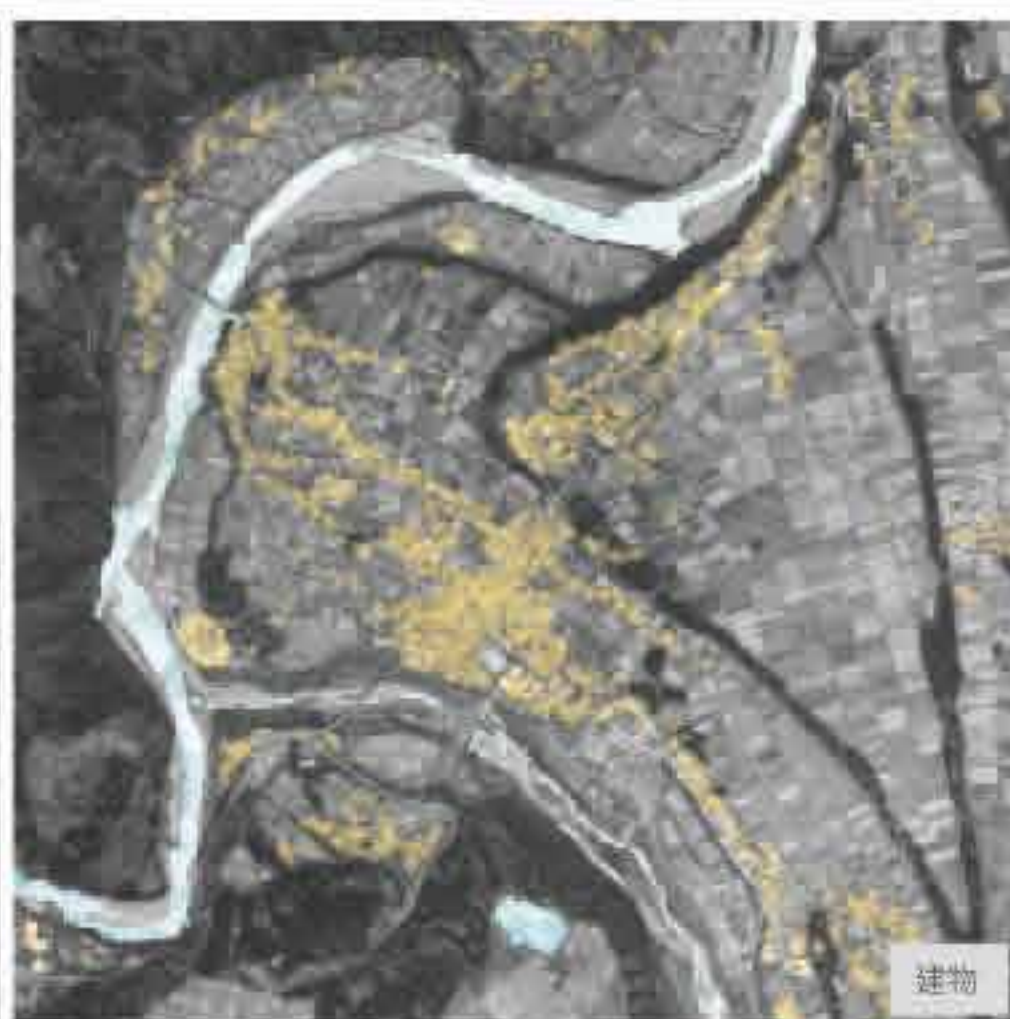
敷地は新潟県中魚沼郡津南町。
 豪雪地帯であり、1年間の積雪は3mほどである。
 少子高齢化による人口減少は懸念されているが、大地の芸術祭や雪まつりなどのイベント、
 コシヒカリや日本酒、雪下人参などの生産、製造で町を盛り上げている。

program

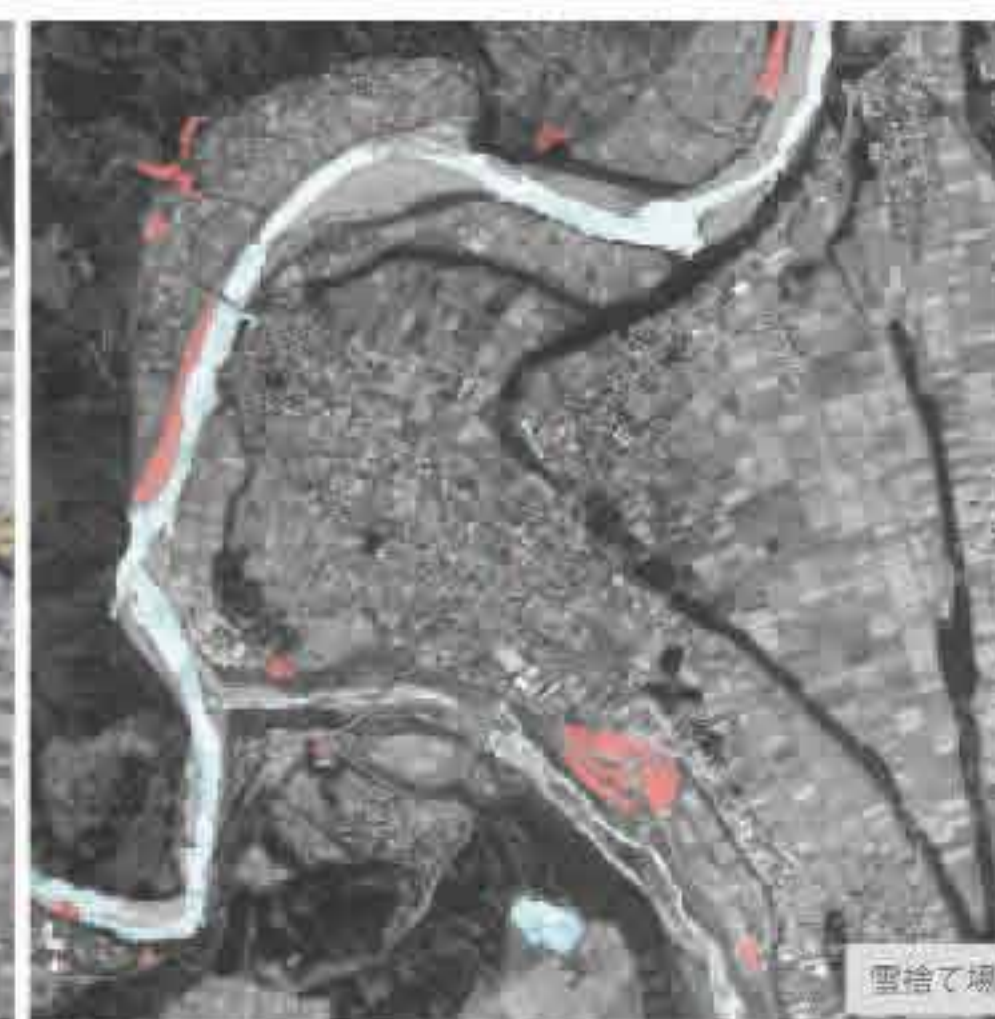
3つ公共施設の建て替えを3期に分けて計画する。
 雪というコンテキストを建築に活かすことで、夏を涼んだり冬を楽しんだりすることができる。
 さらに3つの公共施設を近づけることで、冬は一つの敷地であるようになり、
 それらの施設と外部空間を使った雪のない時期を総合公園、雪のある時期を巨大な美術館として計画する。
 また、本設計は第1期の市場と公民館の建て替え計画である。



主要道路



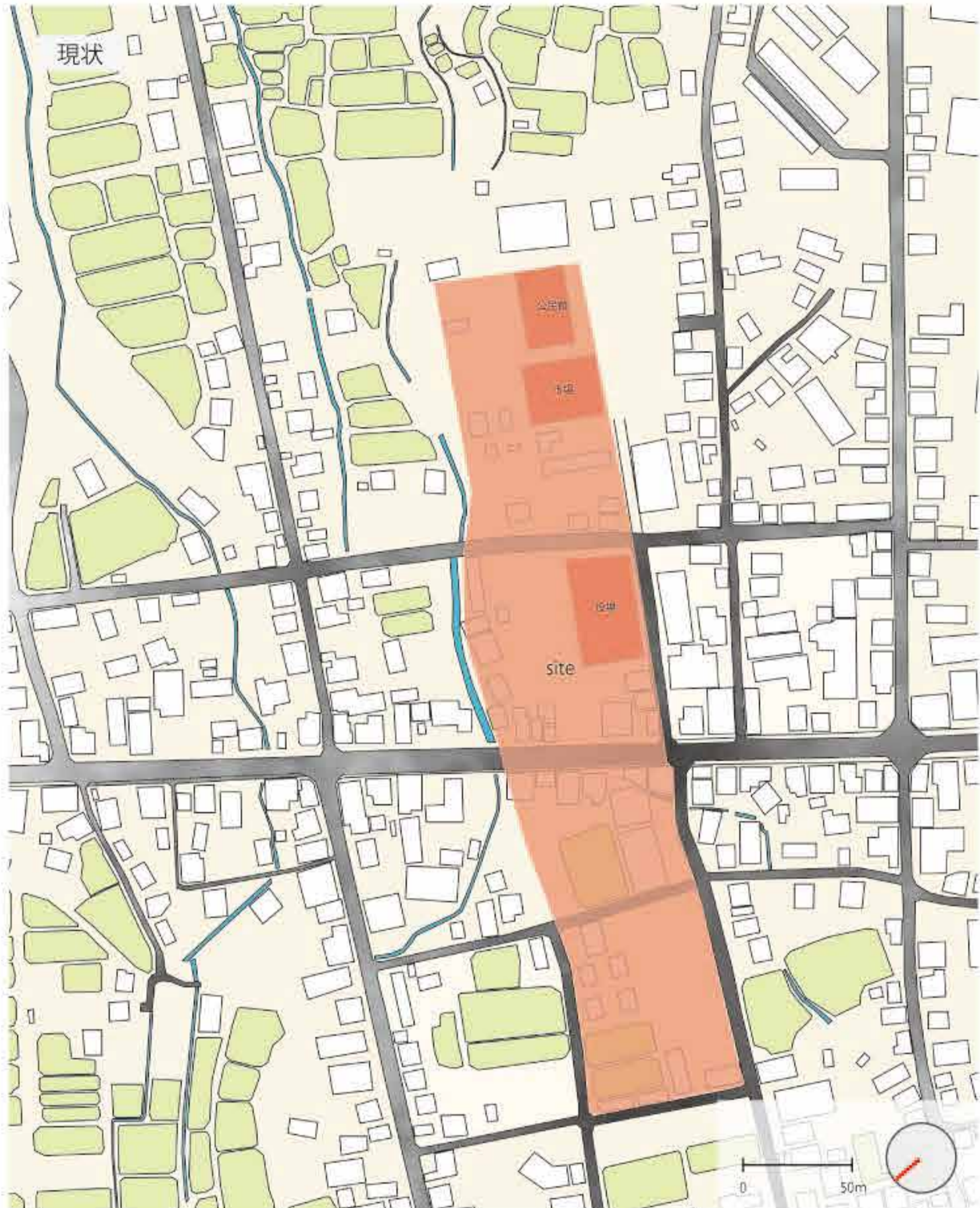
建物



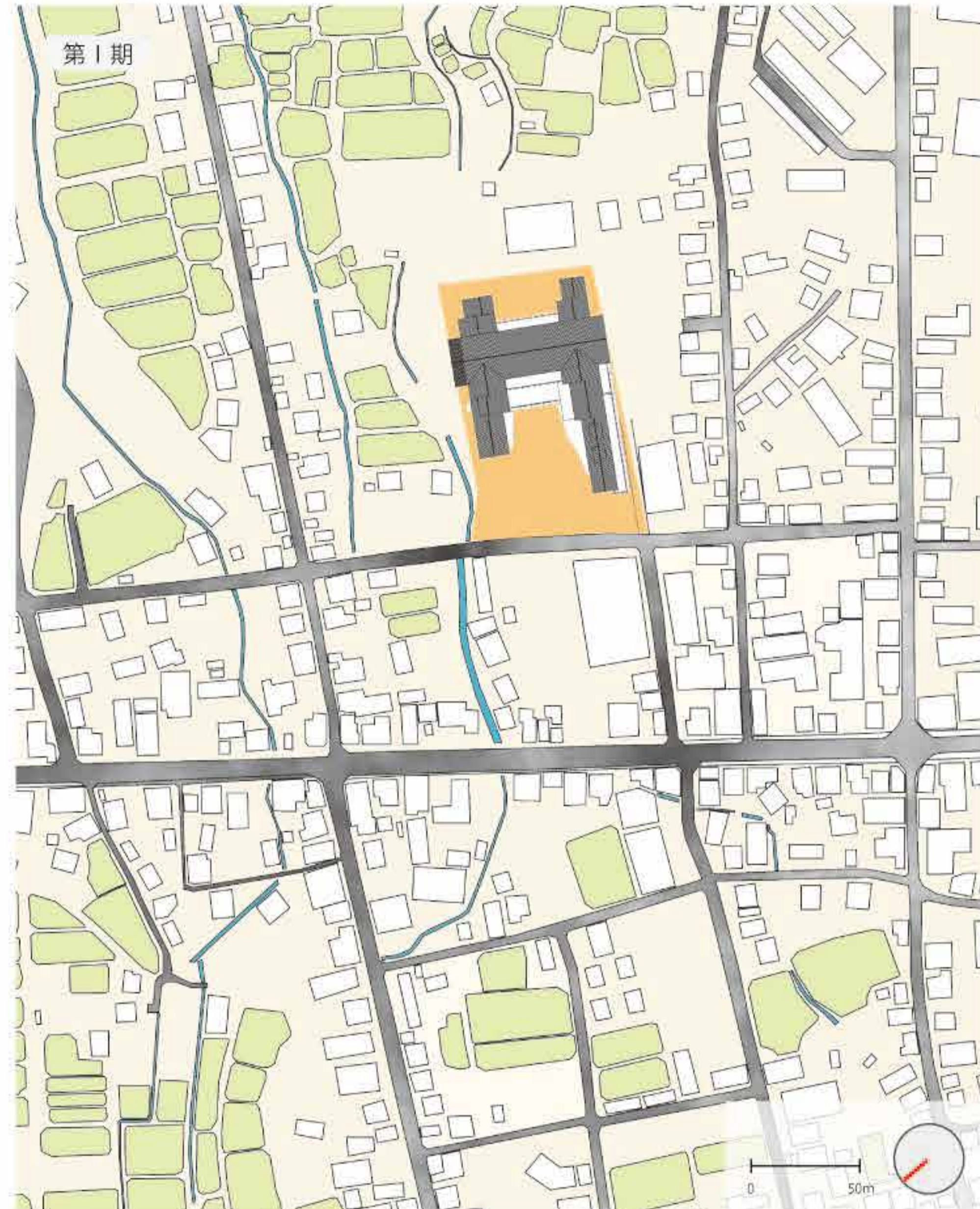
雪捨て場



雪まつり

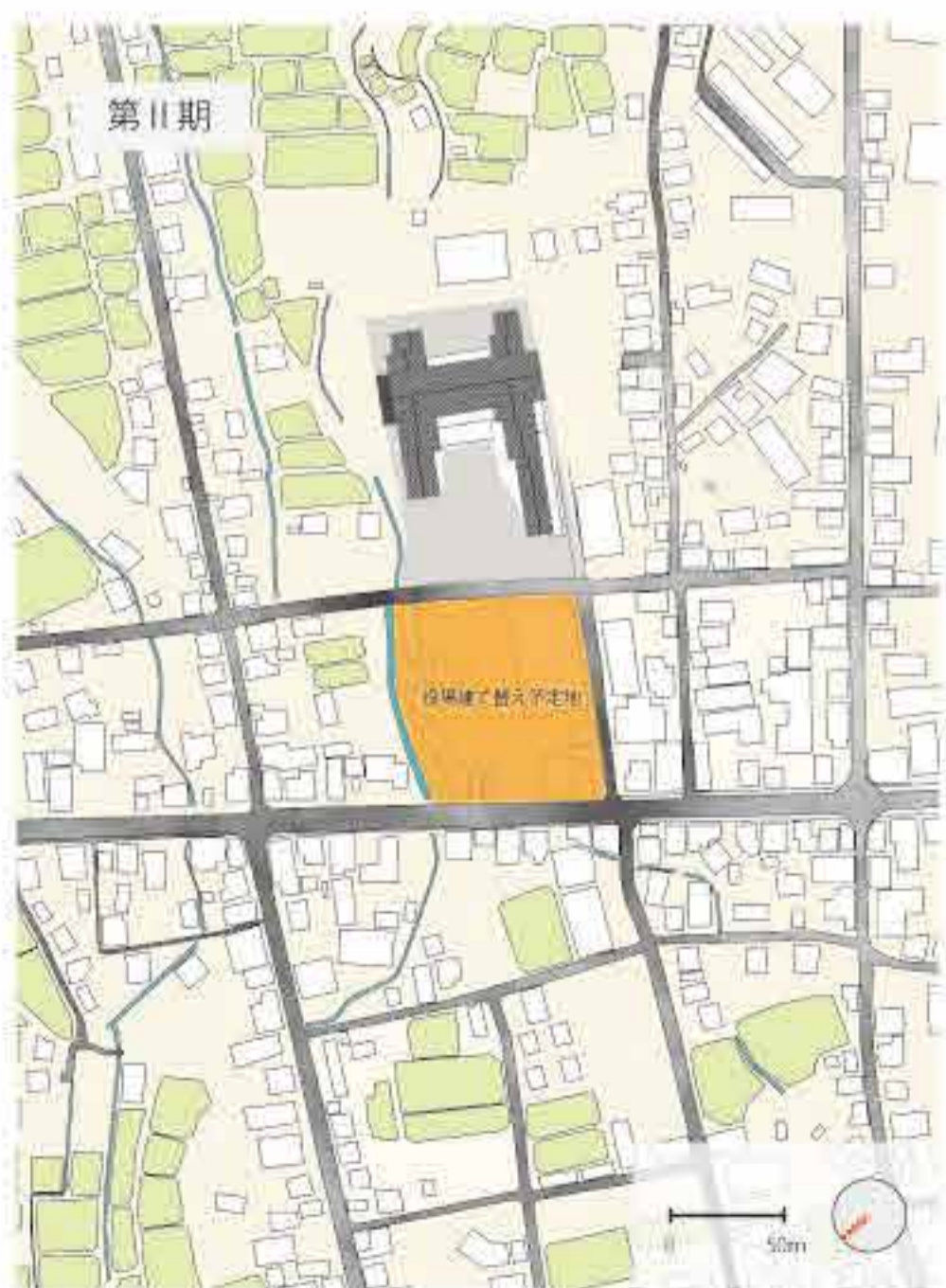
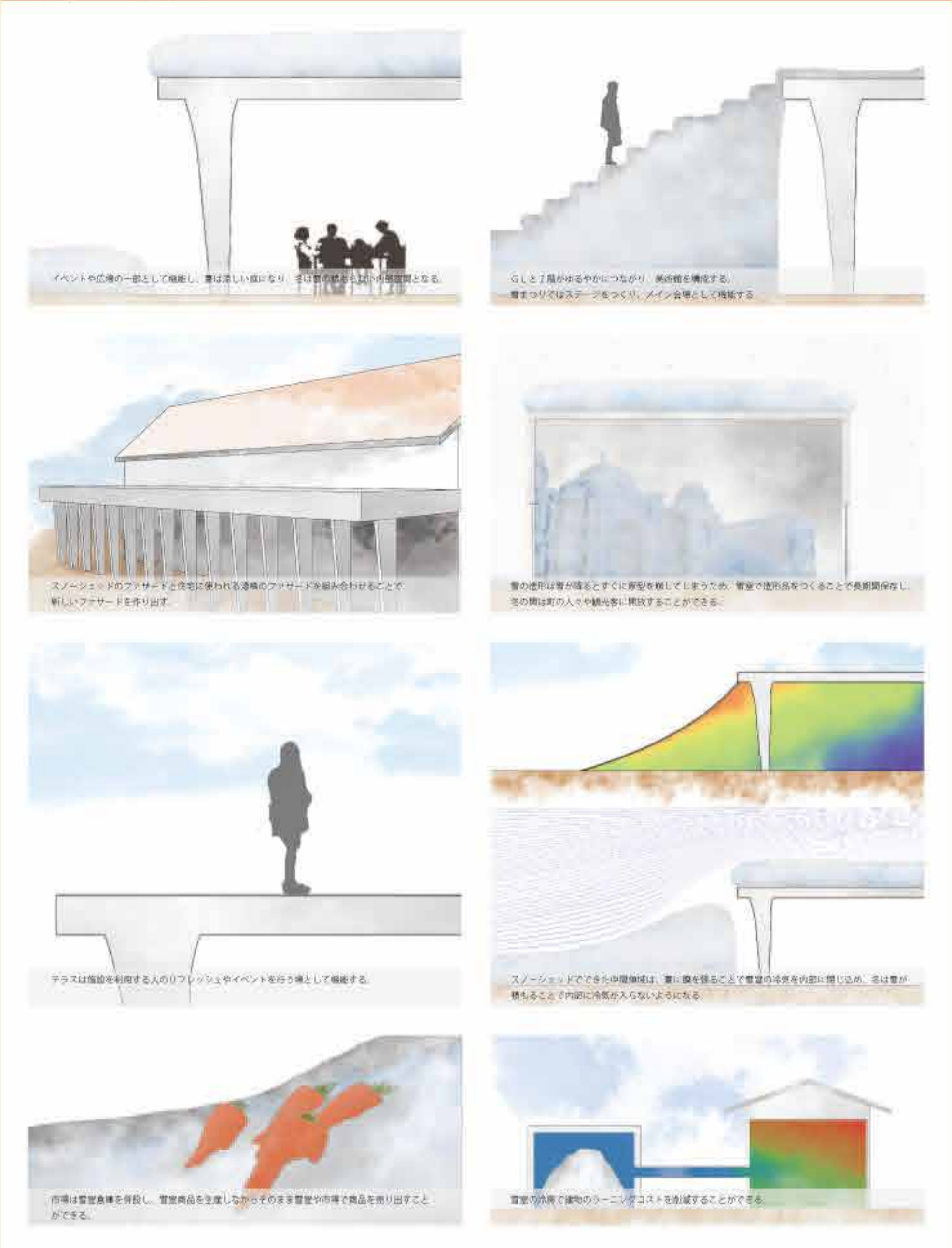


南東から北西にかけて公共施設や主要商業施設が離れて配置されている。それらの施設を建て替えることによって近づけるように計画し、それぞれに広場を設け、全体で総合公園をつくる。冬になると施設同士がつながり、雪面ならではの外部と内部をつないで利用した美術展示が行えるフォルドアートミュージアムになる。また、雪まつりを街中で行え、除雪の雪を有効に使えるようになる。

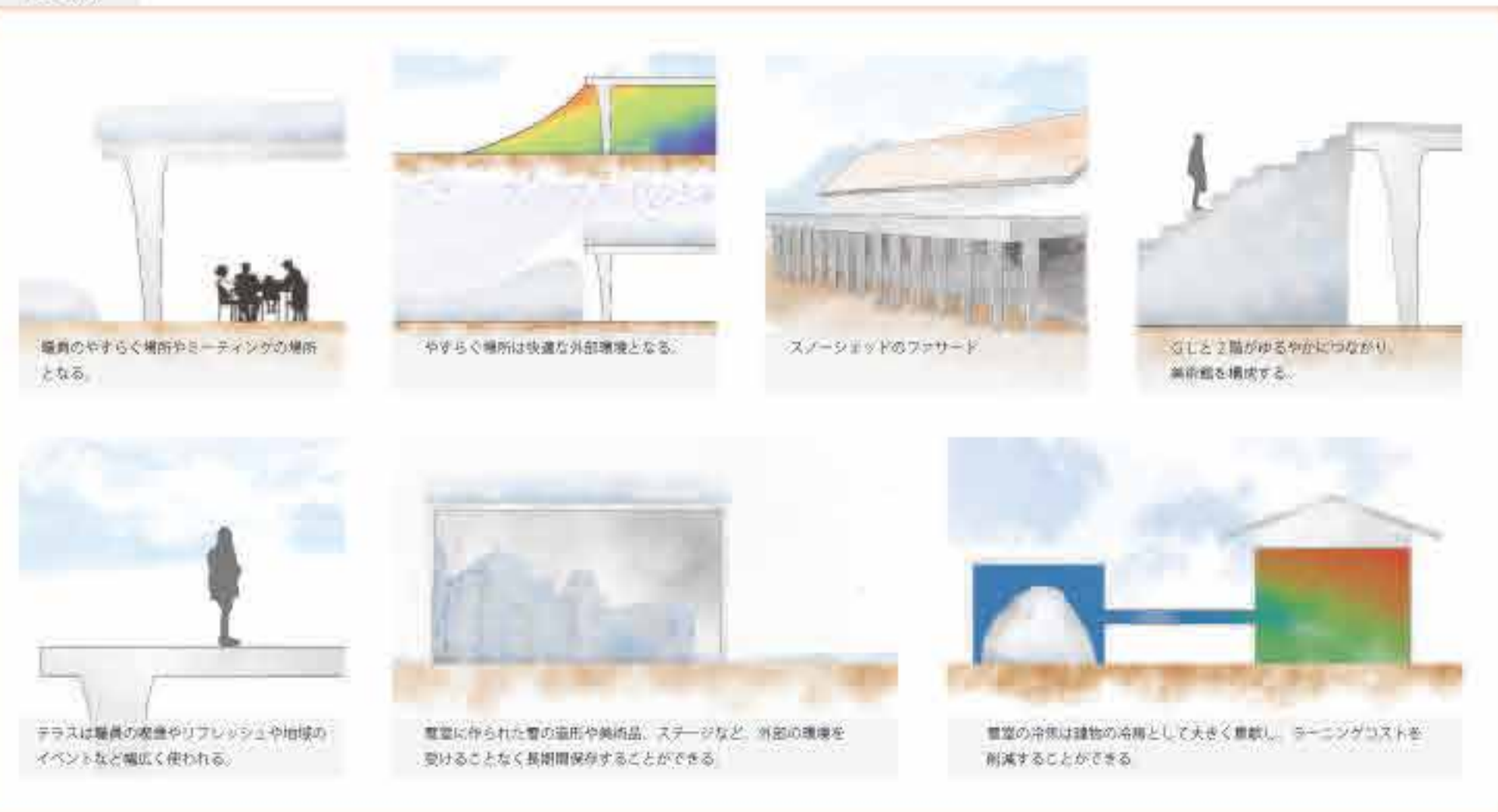


津南町の商業の中心である市場と周辺の地域で行われる行事の拠点である公民館の建て替え計画である。建物は役場に開く形態にし、公園のような広場をつくる。その広場に雪を集め、冬では雪まつりや美術展示の拠点として機能する。

市場 + 公民館



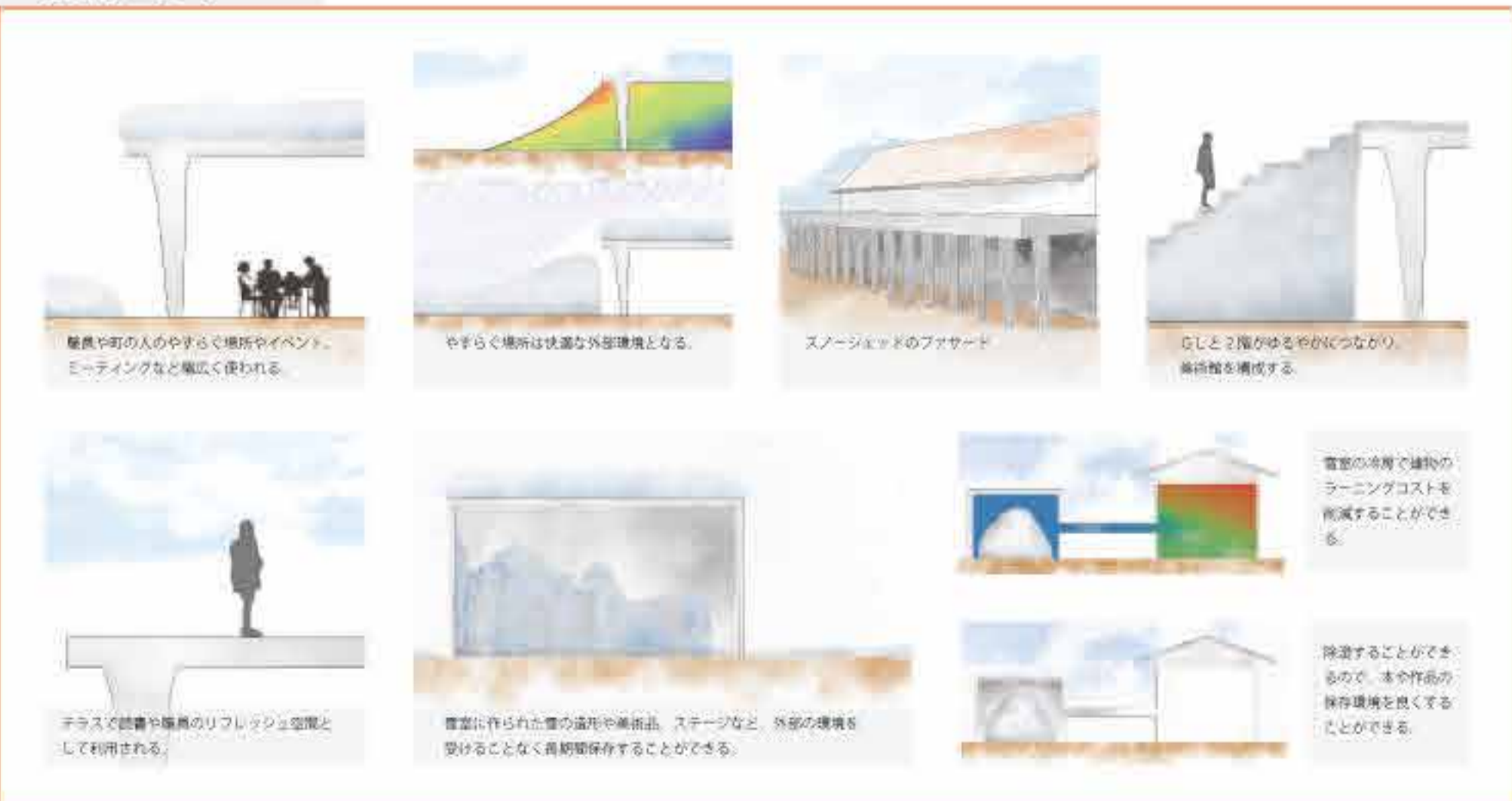
役場



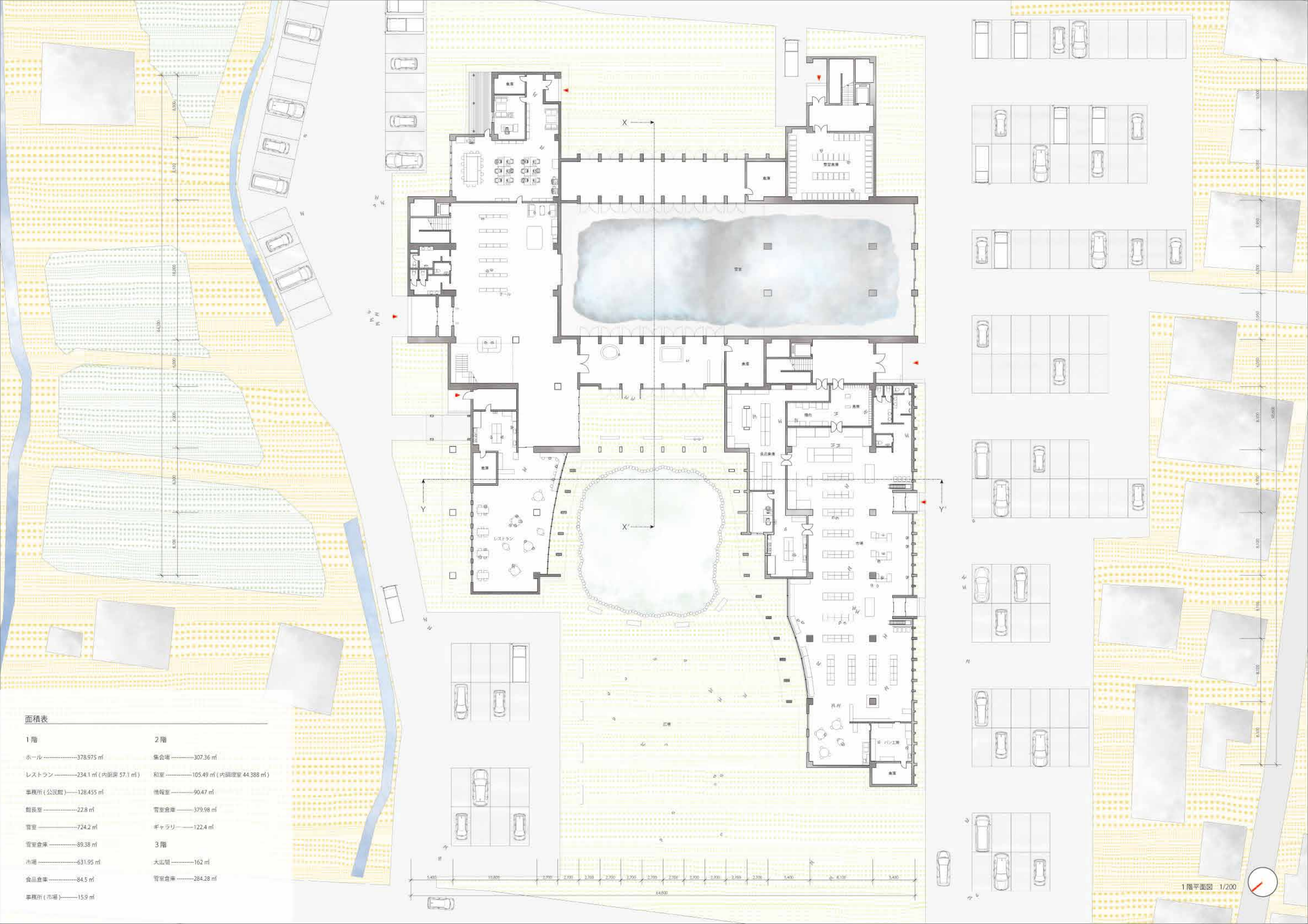
役場の建て替え計画である。公共機能の中心に位置し、人々が最も行きかう場であるため、スノーシェッドによる半屋外空間を多く設ける。そうすることによって、冬場でも歩行を妨げず、また夏はその上は涼やかなテラスとして機能し、住民や役場の職員の滞在空間となる。



文化センター

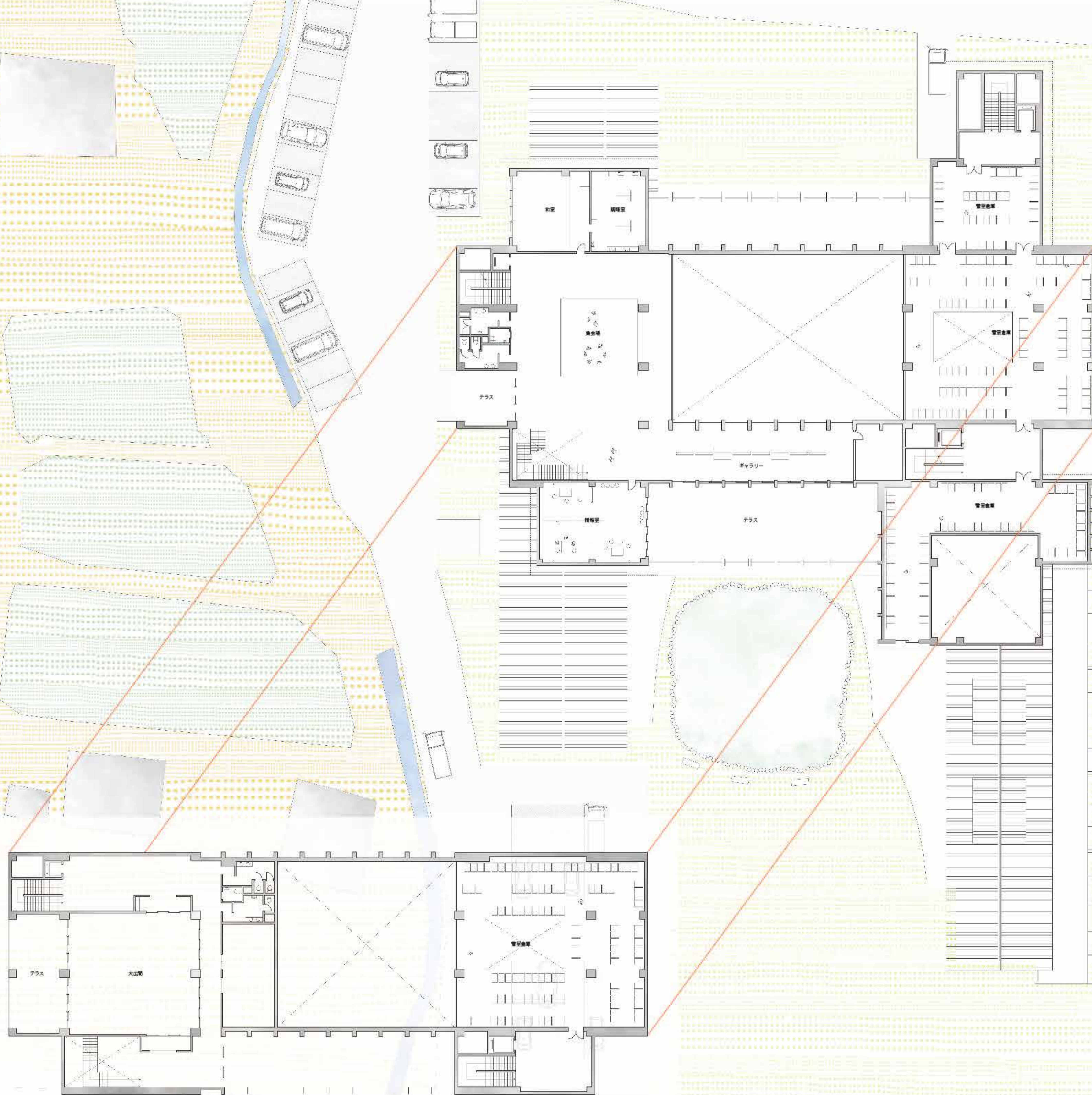


文化センターの建て替え計画である。津南町の文化的機能が集積した建物で、様々なイベントや講演が行われ、図書館も町の人々が主に利用している。雪によって、冬は普段と違った美術展示や講演などのイベントが行えるように計画する。

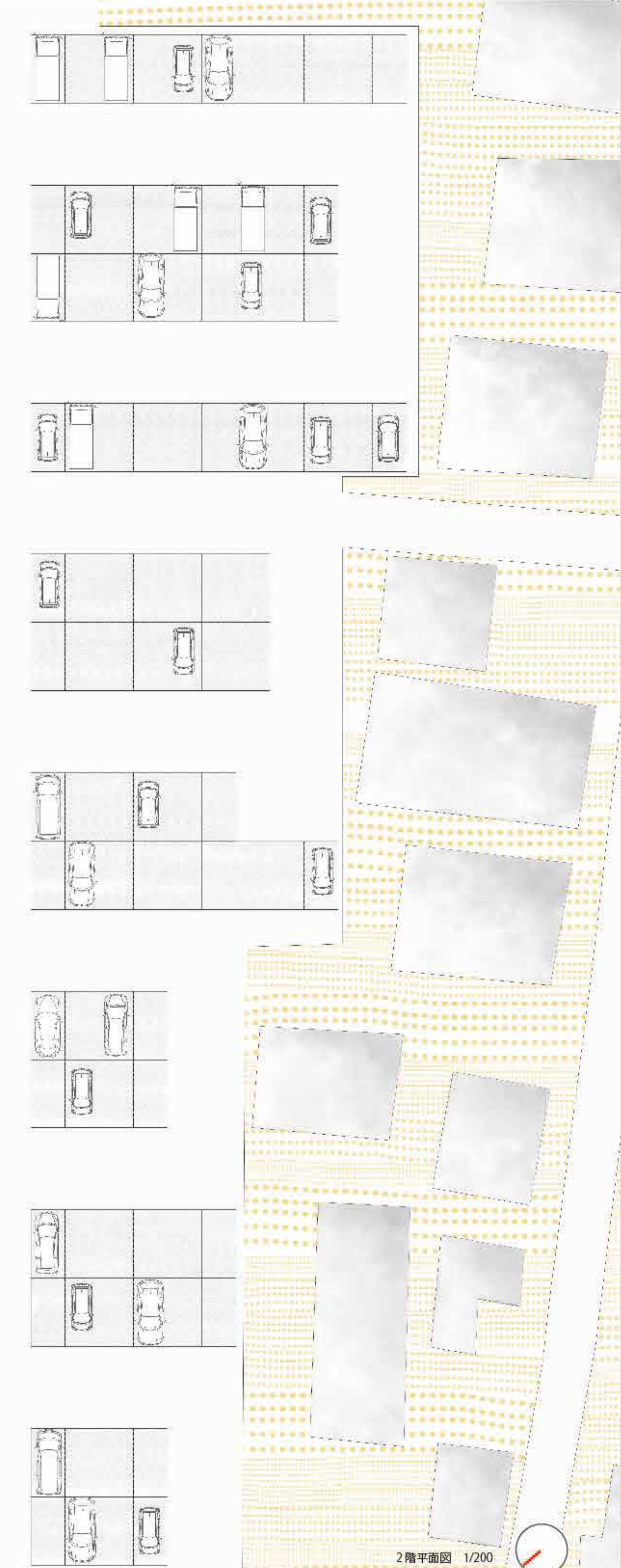


面積表

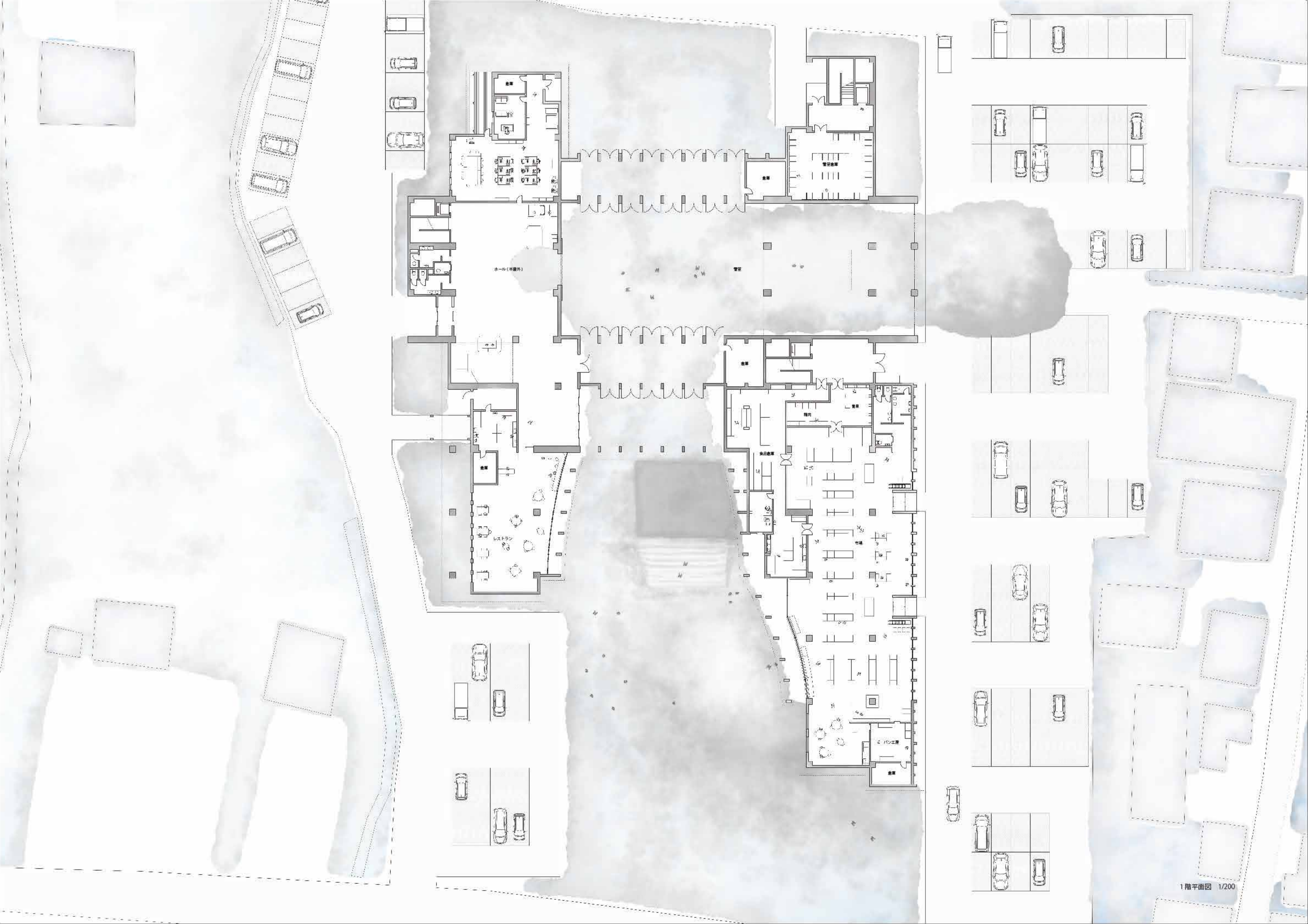
1階	2階
ホール——378.975 m ²	集会場——307.36 m ²
レストラン——234.1 m ² (内厨房 57.1 m ²)	和室——105.49 m ² (内調理室 44.388 m ²)
事務所 (公民館)——128.455 m ²	情報室——90.47 m ²
館長室——22.8 m ²	書室倉庫——379.98 m ²
書室——724.2 m ²	ギャラリー——122.4 m ²
書室倉庫——89.38 m ²	3階
市場——631.95 m ²	大広間——162 m ²
食品倉庫——84.5 m ²	書室倉庫——284.28 m ²
事務所 (市場)——15.9 m ²	



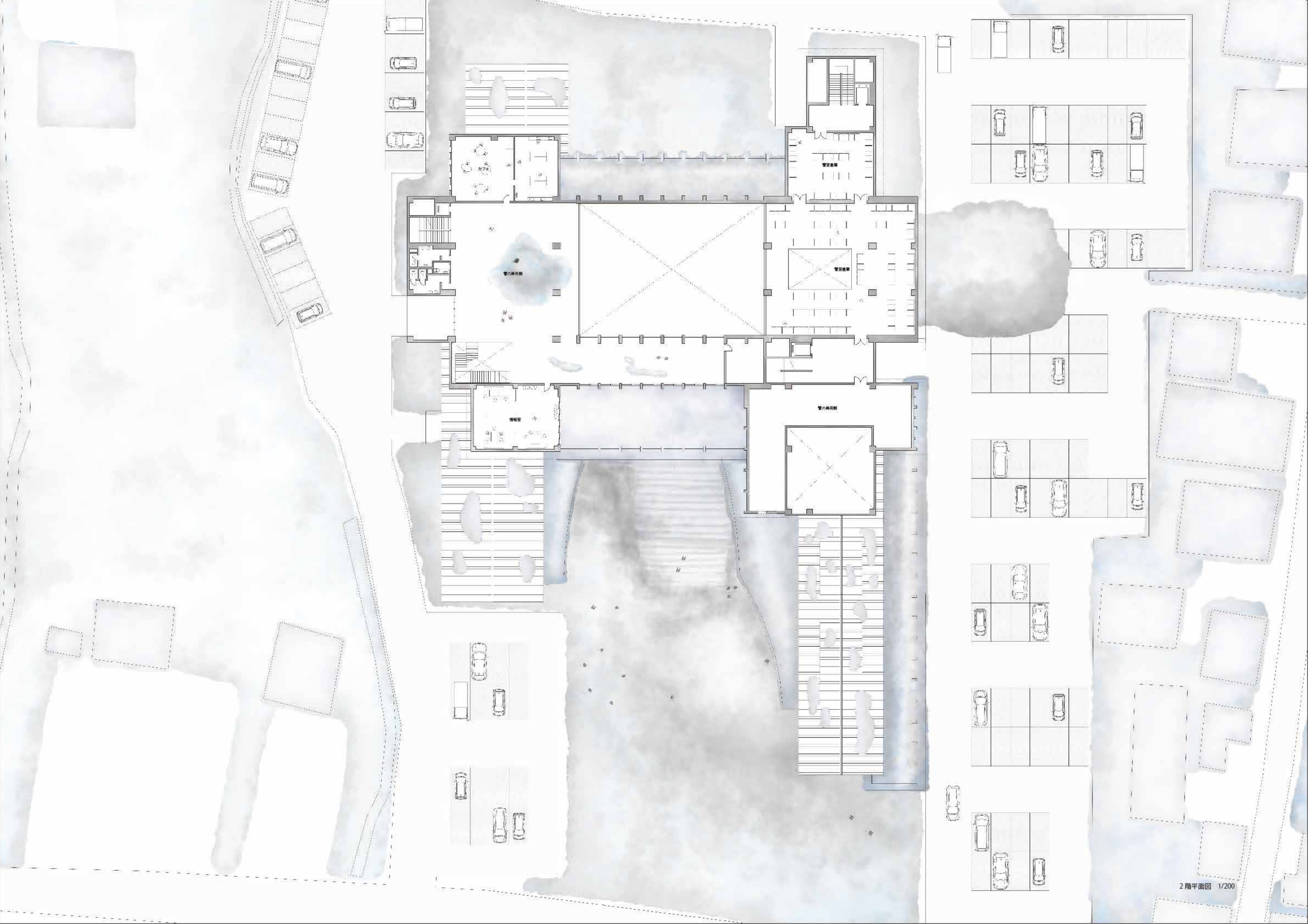
3階平面図 1/200

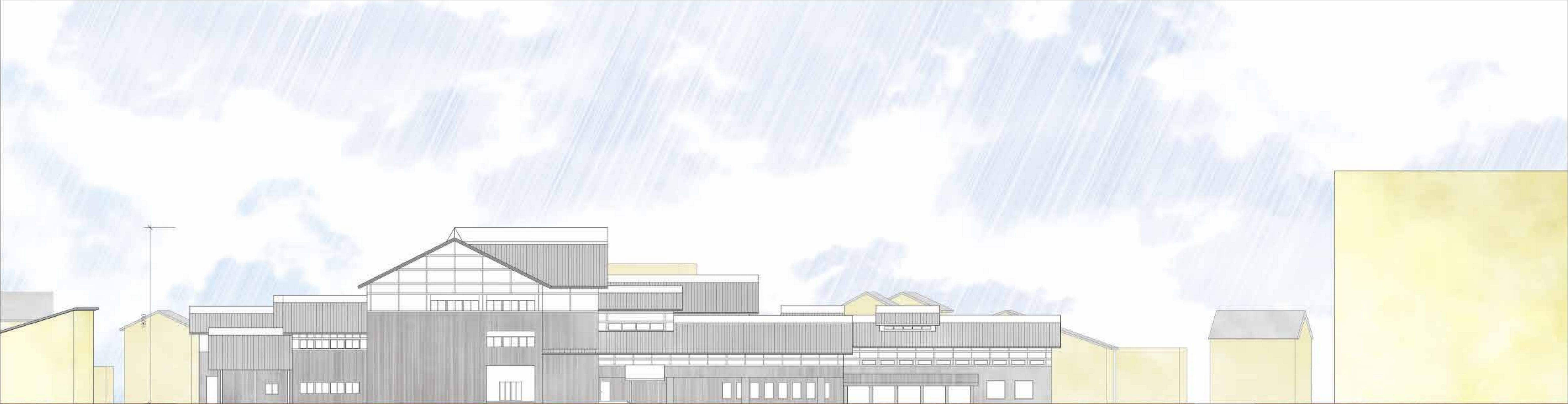


2階平面図 1/200

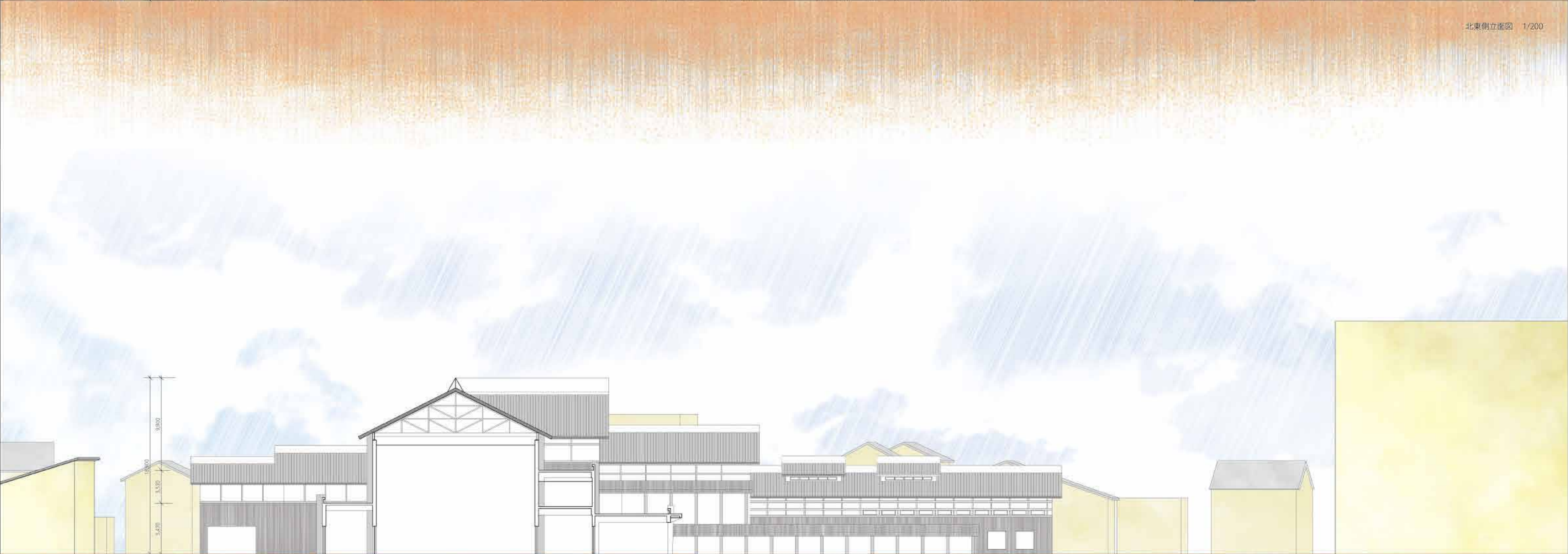


ホール(平屋外)





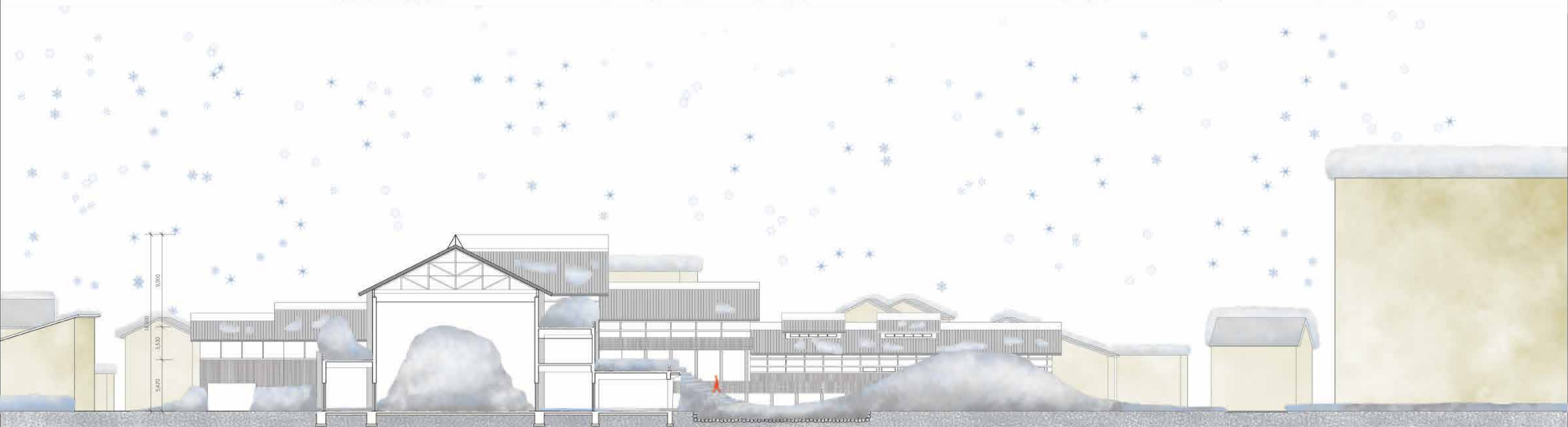
北東側立面图 1/200



X-X 断面图 1/200



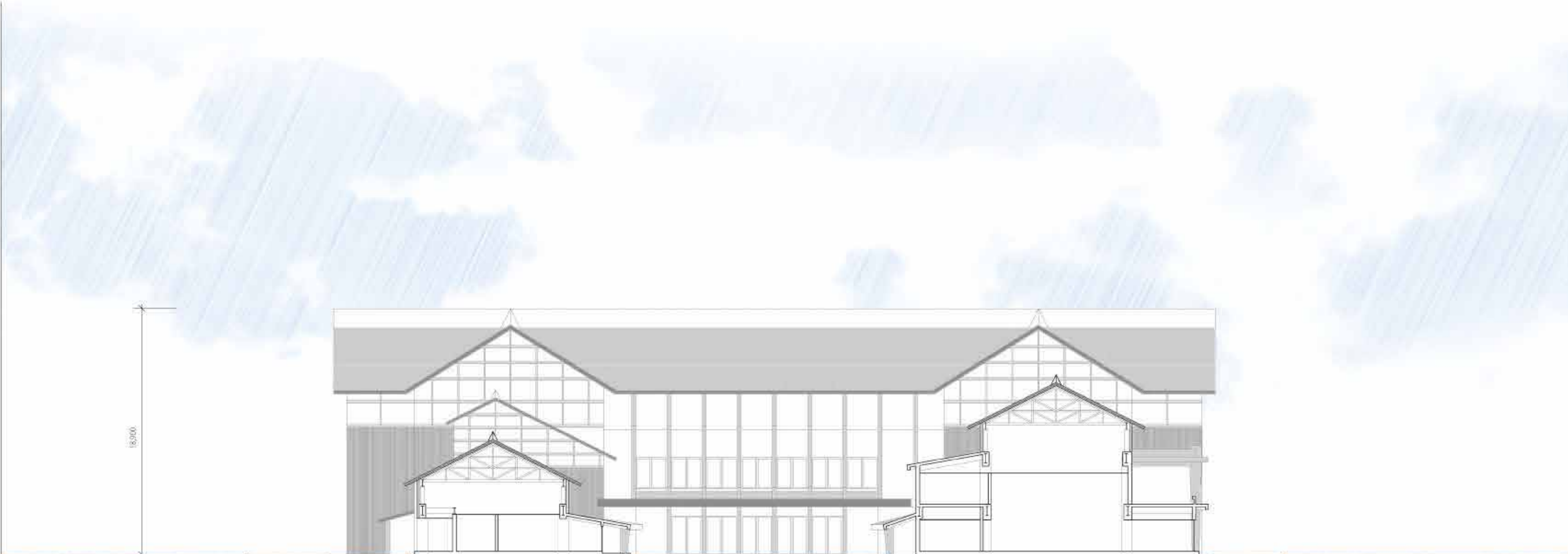
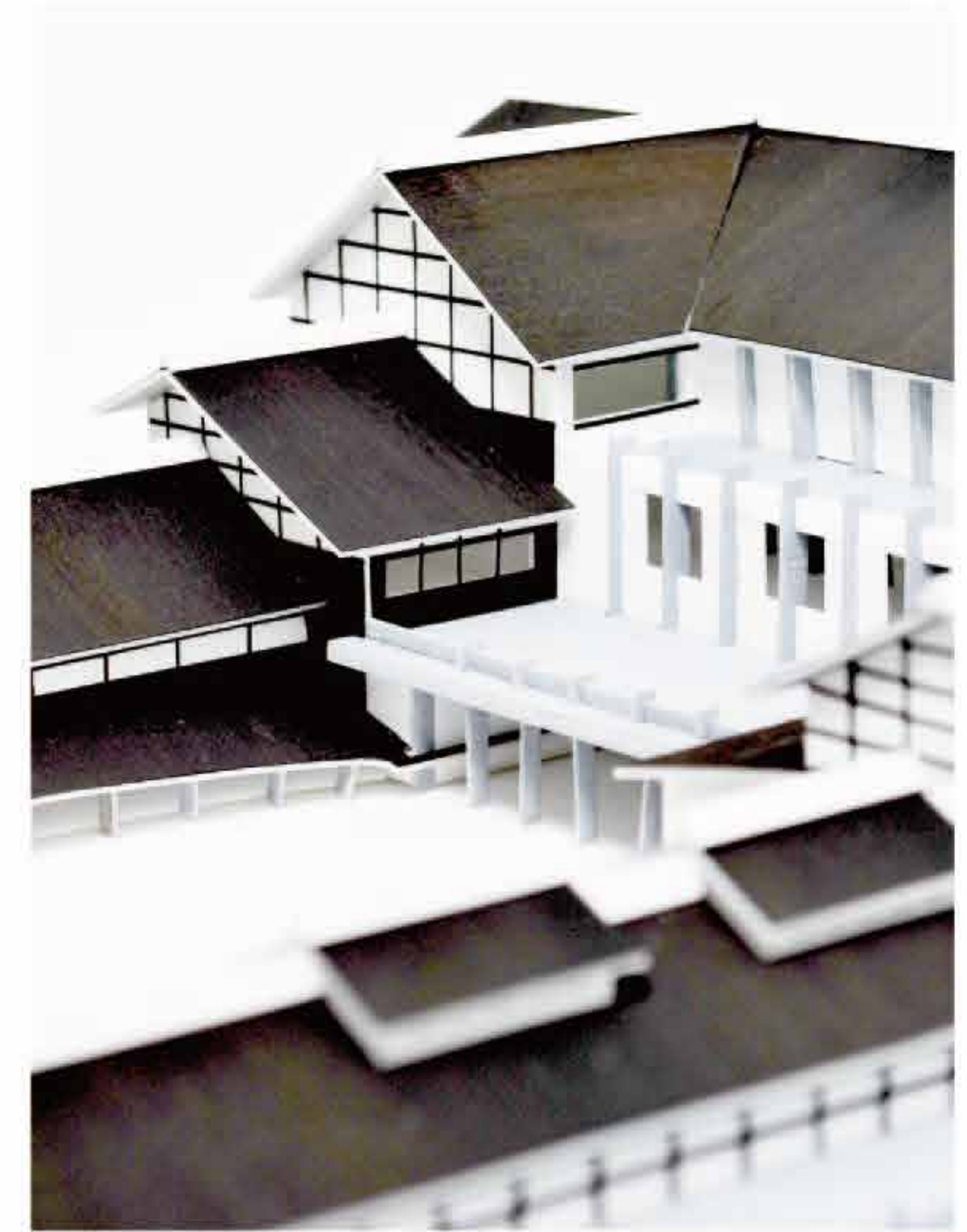
北東側立面图 1/200



X-X 断面图 1/200



北西側立面图 1/200



Y-Y' 断面图 1/200



